

留 学 報 告 書

記入日:2020年6月21日

所属学部／研究科・学科／専攻	国際日本学部国際日本学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: カリフォルニア州立大学チャンネルアイランズ校 現地言語: California States University Channel Islands
留学期間	2019年8月～2020年5月
留学した時の学年	2年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	2年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	コミュニケーション <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2020年5月22日
明治大学卒業予定年	2022年3月
留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input checked="" type="checkbox"/> その他
学年暦	1学期:8月下旬～12月中旬 2学期:1月下旬～5月下旬 3学期: 4学期: (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	7093人
創立年	2002年

留学費用項目	現地通貨 (米ドル)	円	備考
授業料	0	0円	
宿舍費	12670	円	2020春はCOVID-19の影響で途中帰国 \$3149返金
食費	1410	円	ミールプラン
図書費	100	円	
学用品費		円	
携帯・インターネット費	294	31473円	
現地交通費		円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	
被服費		円	
医療費		52045円	予防接種
保険費	1629.89	60515円	形態:両大学の保険に加入
渡航旅費		50000円	
ビザ申請費		20000円	
雑費		円	
その他		円	
その他		円	
合計		円	

渡航関連

渡航経路

往路 出発地:羽田空港 目的地:ロサンゼルス国際空港 経由地:関西国際空港

復路 出発地:ロサンゼルス国際空港 目的地:成田国際空港 経由地:

渡航費用

①往復チケットを購入した場合

航空会社: _____

料金: _____

②片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社:JAL 料金: _____

復路 航空会社:DELTA 料金:¥50000 ∴合計: _____

航空券購入方法

旅行代理店(店名: _____) インターネット(サイト名: _____) その他(父のマイレージで購入)

滞在形態関連

1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)

学生寮(寮の名前: Anacapa) アパート ホームステイ

2)部屋の形態

個室 相部屋(同居人数 _____)

3)共有部分

バス トイレ キッチン(自炊可 自炊不可)

4)住居を探した方法:

オンライン

5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

私はハウスメイト 5 人とのシェアハウスの様な形態での寮生活であった。全員現地生だったということもあり、コミュニケーションを積極的に取ることがお互いにとってストレスのない時間が過ごす上で重要であると感じる。また、プライベート空間を確保したい人には一人部屋を申請することを勧める。

現地情報

1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)

なし

あり(治療を受けた場所: _____)

2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)

なし

あり(問題の内容や相談した人等: _____)

3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

たびレジと学校のセキュリティへの登録をして、情報收拾をした。実際に犯罪に巻き込まれたことはないが、何度か注意喚起のメッセージは届いた。

4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

到着して1週間ほどは SIM の接続が悪く、ほとんど繋がらなかった。学校の wifi の接続はまちまちで、教室の場所によっては接続しにくいところもあった。反対に寮では安定して使用することができた。

5)現地での資金調達はどうに行いましたか? (例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

事前に日本円で5万円ほどを米ドルに換金して持っていった。買い物は基本的にクレジットカードを使用したので、現地で追加でお金を下ろしたりはしていない。

6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

自炊をする場合は、日本の調味料を持っていくと安心する。また、女性は生理用品を持っていくと肌トラブルなどに悩まなくて良いかもしれない。大体のものは現地で調達できるのでそこまで心配する必要はない。

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
24 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() ・履修の制限はありましたか? 講義によってはあった。	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Public Speaking	演説
科目設置学部・研究科	Communication
履修期間	2019 秋
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 170 分が 1 回
担当教授	Susan Lefevre
授業内容	どのようにしたか効果的な演説ができるかを学び、授業毎にテーマに沿ってスピーチをする。
試験・課題など	課題は毎週教科書を一章ずつ読むことで、授業のはじめに小テストを行った。また、自分の演説のアウトラインを提出することもあった。試験は中間・期末と二度あり、内容は小テストと重複するため負担は少なかった。
感想を自由記入	履修していた学生は、私以外は全員現地の学生だったため、はじめはアメリカ人の前で英語を話すことに緊張した。しかし、クラスメイトは一度も冷やかす事無く真剣に聞いてくれたため徐々に慣れていった。教授の丁寧なサポートもあり、楽しく授業を受けることができた。アドバイスとしては、他の授業にも共通して言えることだが、一度目の授業の時に自分が留学生であることや心配なことを教授に伝えておくことが大切だと思う。それは、授業内でのサポートや試験での時間延長、辞書の使用が許可されるなどの配慮をしてもらえることがあるからだ。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Chicana/o Studies	チカナ学入門
科目設置学部・研究科	Chicana/o Studies
履修期間	2019 秋
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Veronica Valadez
授業内容	チカナとはなんであるかを歴史や文化を通して学んでいく。
試験・課題など	課題はグループで指定された文献を読み、まとめを書くというものと個人で「私のアイデンティティ」をテーマに作品を制作するというものがあった。また、ボランティア活動への参加も課された。試験はなかった。
感想を自由記入	カリフォルニア州でも、メキシコに近い南部に位置する学校であったため、メキシコに家族や由来を持つ人が多くいた。はじめはチカナについて全く知識はなかったが、学びを深めていく中で差別や貧困などの社会問題についても理解することができた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Communication Studies	コミュニケーション学入門
科目設置学部・研究科	Communication
履修期間	2019 秋
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Jose Castro-Sotomayor
授業内容	コミュニケーションにはどのような種類や要素があり、良いコミュニケーションを構築するためには何が必要かを学ぶ。
試験・課題など	課題は、毎週指定された文献を読み授業内容を踏まえた感想や考察を 1 ページ書くというもの、授業内でのアクティビティ、グループプレゼンテーションなどがあつた。試験は、中間・期末と実施され、両方とも選択肢形式であつた。
感想を自由記入	大教室での授業であつたが、教授が生徒に質問や意見を投げかけ、それに生徒が様々な意見を発表するというとても活発なクラスだつたと感じる。現地生の話すスピードは早いので、初めの頃は苦勞することもあつたが、現地生の声をたくさん聞くことができてとても有意義な時間だつた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Cultural Anthropology	文化人類学入門
科目設置学部・研究科	Anthropology
履修期間	2019 秋
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Dr. Patricia Taber
授業内容	人類学・文化人類学とは何かを学ぶ。それぞれの文化の背景や問題を考察する。
試験・課題など	毎週課されるリーディングと複数回のレポートが主な課題であつた。試験は中間・期末の二度で、すべて記入式であつた。
感想を自由記入	用語が難しかったり暗記するものが多く、履修した中では一番大変だつた。しかし、教授のサポートもあり充実した時間が過ごせた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Composition and Rhetoric	構成と修辞
科目設置学部・研究科	English
履修期間	2020 春
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Stacey Beauregard
授業内容	リサーチの仕方や注釈のやり方を学び、自分で決めたテーマについてリサーチペーパーを書くことが目標であつた。グループワークで他のクラスメイトの文章を読み上げたり、意見を交換する場も多々設けられた。
試験・課題など	毎週課される文献についてまとめを書くことや、リサーチペーパーの草案を提出することが主な課題であつた。試験は実施されなかつた。
感想を自由記入	レポートの書き方は、日本とアメリカで異なっているところがあつたのでたくさん学ぶことが出来た。教授のサポートも手厚かつたも良かったと思う。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Interpersonal Communication	対人コミュニケーション
科目設置学部・研究科	Communication
履修期間	2020 春
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Dr. Elenie Opffer
授業内容	対人コミュニケーションとはどのようなものか、どのような要素があるのかについて学ぶ。
試験・課題など	毎週教科書を一章ずつ読み、授業の初めにクイズが課される。他にはグループプレゼンテーションが学期末にある。試験は中間・期末の二度あり、全て選択肢問題であった。
感想を自由記入	クラス内の意見交換が活発で、様々なアクティビティをしながら学んでいくのでとても楽しんで受講することが出来た。また、内容もコミュニケーションのあり方について考えることができるので良い機会となった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Introduction to Global Studies	グローバルスタディーズ入門
科目設置学部・研究科	Global Studies
履修期間	2020 春
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Chris Scholl
授業内容	初めに世界で起こっていることをリアルタイムで考察していく。そして、世界の地域ごとに文化や歴史について講義を中心に考察する。
試験・課題など	世界地図のテスト、二度の試験が課される。課題は、授業前に世界で何が起きているかを調べていくことと、二度のレポートである。
感想を自由記入	中東など普段あまり意識の向かない地域についても授業で取り上げられたので、より視野を広く世界を見る必要を感じた。また、後半はコロナの時期と被っていたこともあり、各国がどのような状況なのか、アメリカ人がどのように捉えているのかを生で聴くことが出来て面白かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
Social Problem	社会問題
科目設置学部・研究科	Sociology
履修期間	2020 春
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 75 分が 2 回
担当教授	Dr. Sunghee Nam
授業内容	社会問題とは何かから学び、アメリカで起きている様々な社会問題についてその背景を含めて考察していく。
試験・課題など	毎週課される複数の文献をもとに5パラグラフのレポートを作成する。ボランティア活動も課されていたが、新型コロナ感染拡大の影響で中止となり、代わりにコロナに関するインタビューを基にしたレポートとプレゼンが課された。試験は中間・期末の二度であった。
感想を自由記入	アメリカ社会について、アメリカ人がどのように捉えているかを聴くのはとても興味深かった。また、想像以上に問題が山積している事実にも驚いた。たくさんの学びがあったのでとても充実した授業であったといえる。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など

3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。

5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

2018年 1月～3月	
4月～7月	
8月～9月	語学試験の勉強
10月～12月	11月 TOEIC 受験、大学間協定留学に応募 12月 面接
2019年 1月～3月	1月上旬 結果発表 2月 留学先校とのやりとり始まる 3月 入学許可が下りる
4月～7月	4月 航空券の手配、寮・履修講座の申請、 5月 ビザ申請・取得、 6月 予防接種
8月～9月	8月上旬 SIMカードの用意 8月下旬 2019 秋学期開始。 事前に留学生のためのオリエンテーションや welcome party が催された。
10月～12月	10月下旬 中間試験実施 ハロウインの日は、カリフォルニア州で多発していた山火事の影響で休校となる。
2020年 1月～3月	1月下旬 2020 春学期開始 3月中旬 中間試験の予定であったが、新型コロナ感染拡大のため学校が休校となり授業のオンライン移行が確定する。寮からは、退寮を求められたため 3月 25日に日本に帰国した。
4月～7月	4月 オンラインでの授業開始。中間試験が延期になっていたものは 4月頭に実施。 5月中旬 期末試験
8月～9月	
10月～12月	

留学体験記

この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、留学を志す後輩学生へのアドバイスなどを自由に記入してください。

カリフォルニア州立大学チャンネルアイランズ校を留学先を選んだ理由は、コミュニケーション学部という学部に着かれたのが一つにある。また、個人的にカルチャーショックが少なく勉学に集中できるアメリカ合州国にしようと思った。実際にアメリカで生活をしていく中で、生活様式や物事の捉え方・考え方の差を肌で感じる事が出来たのがとても良かった。様々なバックグラウンドを持つ学生が集まっているので、多様性や文化を考える上では良い環境であったと思う。

授業はリーディングの課題が多く、平日は課題をこなすので必死であった。しかし、授業内でたくさんの知識と視野を広げられたので充実していた。また、英語力については、あまり心配する必要はないと感じた。意見を求められた際に、伝えようという意思を見せれば相手も聞こうとしてくれた。チャレンジ精神や積極性の方が重要となるだろう。生活上で困った点としては、立地が悪く車がないと遠出しにくかったことが大きい。また、10月ごろから始まるFire seasonは実際に学校近くでも山火事があったので怖かった。

新型コロナウイルスの影響で2020春の後半は日本でオンライン授業を受講した。日々状況が変わっていく中で、不安は絶えなかったが学校の対応は迅速で丁寧であったと感じた。留学生に対するサポートも充実しており、その点においては安心であった。オンライン授業に変更となり、授業のあり方や課題が大幅に変更されたものもあった。そのような状況の中で授業を最後まで全うすることが出来たのは、留学がしたいという昔からの強い思いがあったからだと感じる。なぜ自分が留学に行きたいのかということ意識してみると新たな発見があると思う。そして、留学から得られるものは経験や勉強以外にもたくさんあるので、ぜひ挑戦してほしい。